

シンポジウム

「学問にとって未来とは何か」

二〇一一年九月一七日(土) 一二時半開場、一三時～一七時
東京大学駒場キャンパス 5号館511教室

登壇者 (敬称略/五十音順)

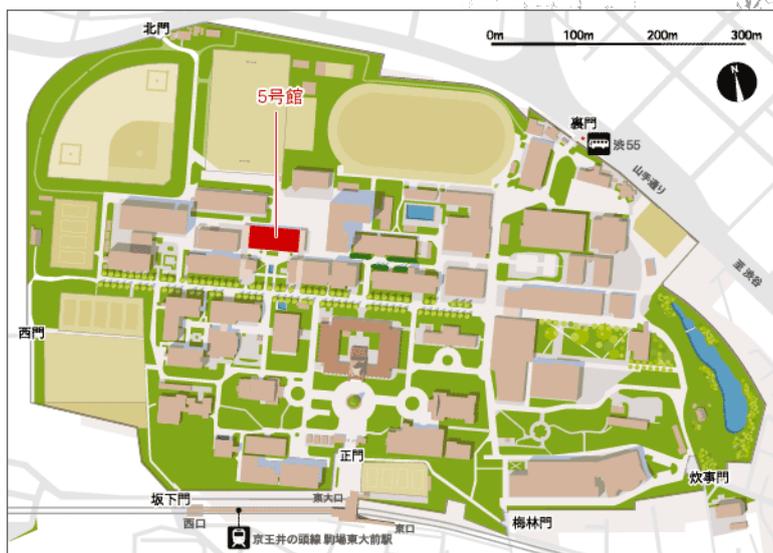
- 飯泉 佑介 (修士課程・哲学)
川本 隆史 (教員・倫理学)
鬼頭 秀一 (教員・環境倫理学/科学技術社会論)
最首 悟 (元助手・問学)
丹波 博紀 (博士課程・思想史)
長谷川 宏 (哲学者)
星埜 守之 (教員・フランス文学)

* 学生・教員は東京大学所属

三月十一日に発生した東日本大震災とそれに伴う原発公害は、この科学技術文明社会の大きな推進力の一つである学問のあり方に深い疑問を投げかけるものでした。

たとえば、この間、「想定外」という言葉が頻繁に使われました。では学問にとって「想定外」の未来とは何なのでしょうか、また「想定内」の未来とは。このことと社会や国家、企業はいかに関係し続けたのでしょうか。

このシンポジウムでは、参加者みなで三月十一日に照射される学問・教育・大学の姿を問い、「学問の未来」について議論し合いたいと思います。



(駒場キャンパス内5号館所在地)

会場までのアクセス

- ・ 渋谷駅～京王井の頭線(吉祥寺方面行)～駒場東大前駅下車/
・ 下北沢駅及び明大前駅～京王井の頭線(渋谷行)～駒場東大前駅下車

参加費 無料 (ただし会場でカンパをお願いする場合があります)。

主催 シンポジウム「学問にとって未来とは何か」実行委員会

お問い合わせ先 saishjuku@yahoo.co.jp (丹波宛)

ホームページ http://www.geocities.jp/kushami_79/gakumon_to_mirai.html

* 参加に際して事前の予約などは必要ありません。直接会場までお越しください。